

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1196500563		
法人名	株式会社エイチ・エス・ジー		
事業所名	グループホームみその		
所在地	埼玉県さいたま市緑区美園6-26-3		
自己評価作成日	平成29年3月10日	評価結果市町村受理日	平成29年8月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成29年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当施設は平成26年3月に開所しました。運営理念でもある『笑顔を決やさない快適な生活空間をサポートします』を実践するため、行事には力を入れています。大きなイベントの際は、ご家族様にお知らせし、食事・レクリエーション・ゲームなどを共に楽しんで頂くようにしています。また今を大切に、できることの維持、生活を通じたリハビリを行い、その人らしい生活を送れるよう支援しております。</p> <p>職員は知識・技術のスキルアップを目標に毎月研修を行っており、少しでも入居者様の変化に気づくことができるよう日々努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>・職員が神主や神子役となって、お参りしたり、おみくじを引くなど正月行事やお笑いイベントの志村けんが演じる「白鳥の湖」の衣装を身に付け、イベントを盛り上げるなど、利用者が笑顔で楽しい日々を過ごされるようチームで取り組まれている。また、居室で一人ゆっくり好きな映画観賞をされたり、利用者同士仲良く年末の紅白歌合戦を楽しむなど、利用者個々の思いや時間を大切に穏やかに過ごされるよう支援をされている。</p> <p>・ご家族のアンケートでも、「スタッフの皆さんが色々工夫をして下さるお陰で、アットホームで居心地の良さそうなGHだと思います」、「職員の皆さんの対応がいつも優しい」などのコメントが寄せられ、事業所の取り組みや職員の対応に、ご家族が十分満足されていることが伺える。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤し、まず施設の入口・事務所内にも理念を提示しており、当施設で働く1人ひとりが、1回は目に出来る環境をつくり、理念にもあるように、笑顔を決やさぬよう、努めています。	「笑顔を絶やさぬ快適な空間を提供します」などの理念のもと、コミュニケーションと信頼関係を大切に、利用者が安心して、楽しく笑顔で日々過ごされるようチームで支援に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所から3年を迎えておりますが、なかなか地域とのつながりが構築できていないのが、現状です。しかし、ボランティアや近隣の学校・保育などの交流の機会を検討しています。	駐車場を開放し、フリーマーケットを開催されたり、事業所向かいの公園で遊びに来ている幼稚園児や小さな子供達と交流をされるほか、買物や外食など利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、支援をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長のところへ挨拶に伺ったところ、グループホームや認知症に対してのご理解をいただくことが出来ず、今後の地域貢献についてもまだまだ初歩の初歩の段階です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、入居者の様子・行事、当施設の現状や課題、解決策などを報告し、出席者との意見交換をしています。しかし、開所当初から自治会長・民生委員のかたは1度も参加して頂いていないのが現状です。	事業所から日常のサービスの取り組み状況や行事報告のほか、ボランティアの活用策やレクリエーション企画、地域との交流についてなど、幅広い内容での意見交換が行われ、有意義な会議運営をされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で話し合った議題や施設内での取り組みなどの経過伝えており、他施設での話やアドバイスを受け連携を図っています。	行政の担当者には区内グループホーム連絡会の立ち上げに力添えを得たり、運営推進会議でアドバイスをいただくなど、良好な関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員と日頃のちょっとした業務に関する会話の中でも「身体拘束」と呼ばれる行為について話したり、研修テーマとして取り上げており、職員一人ひとりが理解し業務遂行できるように努めています。	事業所内研修が行なわれ、管理者及び全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、言葉での拘束を含め、行動抑制をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修テーマとして取り上げ、暴力的な物だけではなく、言葉や態度も「虐待」と成り得るということを常に念頭に入れ業務を行うように指導しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人制度を活用している入居者がいる為、関係性を築こうとしていますが、現段階ではまだ勉強会を行うことができていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者により契約の締結・解約、改定の際には、ご本人又はご家族へ説明する時間をしっかりと、不安・疑問点などを確認した上で納得していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居前の実調より可能な限りご自宅で生活している状況に近く、安心して生活を送ることが出来るよう配慮しています。	利用者とは日々の関わりの中で、家族からは面会時や運営推進会議時に意見・要望を聞き取られている。その意見や要望は職員間で話し合い、事業所運営やサービスに活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議やアンケートや面談を適宜行い、働きやすい環境の場所づくりを目指しています。	定例会議のほか、日常的に管理者から積極的に声かけを行ない意見・提案の聞き取りをされている。具体的には職員が神主や神子役となって、初詣をする正月行事やハローウィンなどのレクリエーション企画など、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者による個人面談を行い、現状の不安や悩み、希望や要望など職員一人ひとりの声を聴く機会を設けています。また、日頃のコミュニケーションも大切にして何気ない会話からの声も拾い一緒に考えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回全職員対象の研修を行っています。それ以外でも業務やケアをする上での疑問などを上司に話せる環境をつくり、必要に応じてフロア会議の議題として取り上げ1つずつクリアにしていこう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区内にある当施設を含め5つのグループホームの管理者が「意見交換会」として、各施設の見学を含めて集まり、施設間ネットワークの構築や症例などの意見交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず、ご本人やご家族に会い現在の状況や不安・疑問・要望を確認し、十分な対応が出来るよう準備をしています。また、入居後も環境が変わるご本人の様子をみながら、少しずつ慣れて頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の際、可能な限りご本人様にも施設の雰囲気を感じて頂けるようお越し頂いています。その中で現状と施設に入ってから混乱が少しでも小さくできるよう、ご家族と話し合い関係性を深めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人又はご家族から入居前の状況などを詳しく聞いた上で当施設でも生活を大きな変化が生じない様ご提案させていただき、ご本人に合った方法を見つけていけるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりの状態を把握し、「敬う心」を持って接しています。時には一緒に笑ったり、一緒に歌ったり気持ちの共有を図りながら関係性を深めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた時は例え数分でも職員とご家族の時間をつくり、入居者の施設内の生活状況をお伝えしたり、ご家族の要望を伺ったりと意見交換の場を設けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当フロアの入居者は身寄りのない方やご兄弟しか知り合いがいないため、対象者がいません。	昔からの友人や知人の面会、遠く離れた親族が来所されるなど、これまで大切にしてきた馴染みの関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングには食事席の他にローテーブルとソファを配置しており、いつでもどなたでも座って頂ける環境を作っています。また、時には職員が介入し複数の入居者とおしゃべりなどをすることで、他者同士のコミュニケーションを図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所になられた入居者のご家族への助言やアドバイスをさせていただいたり、いつでもご相談、ご連絡をいただけるようお声掛けをしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話の中から、やりたいことや食べたいものなど傾聴し、少しでも取り入れることが出来るようにしています。	利用者とのコミュニケーションを大切に、声かけを行うことで、思いや意向の把握に努められている。意思疎通の難しい利用者についても、日頃の関わりの中で、表情や仕草などから汲み取られるほか、家族からの情報提供を得て、利用者本位に検討をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には必ず、ご本人やご家族に会い現状の把握に努め、入居後環境が変わるご本人の様子をみながら、以前の環境と大きく変わる事のないように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察を行い、状況・状態把握に努めています。何気ないことから「気付く」ことを大切にしその気づきを会議や連絡ノート・申し送り等で職員間の情報共有を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子などをご家族や医師・看護師などと意見交換を行い助言やアドバイス・アイデアを出し合いながら、ご本人の現状に見合った介護計画を作成しています。	利用者や家族から思いや意向を聴きとり、医師・看護師の指示を含め、関係する職員で意見交換を行ない、その人らしさを大切に、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や業務日報等の書類の必要性や記入の仕方などを研修や会議などで周知し、必要に応じて個々に指導をしています。また、職員が慣れてきたころに再認識してもらうよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの特性上、サービスの多機能化というのが、難しい面もありますが、医師や看護師と連携をとり、医療面での不安などを少しでも取り除けるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ネットを活用したり、地域包括や行政、緑区内のグループホームから情報を集め、いろいろな方法で情報収集をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームの特性上、サービスの多機能化というのが、難しい面もありますが、医師や看護師と連携をとり、医療面での不安などを少しでも取り除けるよう努めています。	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診は家族対応を基本としているが、管理者が同行し、必要な情報提供を行ない、適切な診療が行なわれるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	上記同様、訪問看護師に現在の状況・状態を伝え訪問看護記録の記入や申し送りをしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、施設での生活状況を先方に伝える事で情報を共有しています。また当施設には医師・看護師が常駐していないため、退院時にはそんな環境でもご本人に負担がかからない状態を確認してもらえよう、特に連絡を密に取っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについての研修会を行ってはいませんが、実際に終末期を迎えるような経験をした職員が少ないのが現状であります。また、ご家族様との話し合いについては管理者を始めとしてとりおこなっております。	入居時に重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一をされている。その後も意思確認を進めながら、希望に沿った最大限のケアに向け取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場研修などで急変時の対応についてをテーマに行っています。また、発熱などの対応についても、その都度担当職員に指示をだし、報告・連絡・相談等の対応をとっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修会を通じて避難場所の確認や緊急時の夜間体制などを確認している。地域にはまず周知活動が必要でまだ行えていません。	定期訓練では消防署立ち会いのもと、2階キッチンからの出火を想定し、初期消火・通報・一次避難場所への誘導訓練に取り組まれている。また、備蓄品の整備や水害時対策など、体制整備に努められている。	災害対策には十分取り組まれているですが、どんな災害がいつ起きるか想定は出来ません。特に、職員の手薄となる夜間帯での災害発生を想定した訓練の実施など、災害時の組織対応力の向上に向けた取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様の気持ちを尊重しながら、羞恥心、プライバシーには配慮した声掛けを行っています。	健全な男性利用者の入浴時には、付かず離れず浴室の扉も少しだけ開けて、見守りをされたり、申し送りは小声で行なうなど、利用者の人格を尊重した対応、プライバシーや羞恥心に対する配慮など、きめ細かな対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から好きな事、興味があったこと(映画や音楽など)を聞きだし、それらをレクリエーションの中に取り入れたりしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課となっている体操以外は参加希望者を募りレクリエーションをしており、のんびり過ごしたい方はお部屋やレクリエーションの輪から離れた場所で過ごされています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設内では、ある程度室温管理をしていますが、やはり、その季節にあった服装をしてもらうため、時には声掛けをし、助言させてもらったり、衣替えも行います。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備は、当フロアでは男性入居者が多いため行っていないが、独歩出歩ける方には下膳をしてもらっています。中でも杖歩行の方は湯呑、コップだけなど転倒などのリスクを考慮して行っています。またキッチンに持ってこられた時に「ごちそうさま」「おそまつさまでした」と入居者と職員の言葉かけで食事の時間が穏やかな時間となっています	利用者個々の力に合わせ、食事の準備や後片付けなどを職員と共に行っている。正月にはお節料理に甘酒などが提供されているほか、ケーキや饅頭づくりを楽しまれるなど、食の楽しみを大切にしたい支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立となっているので、バランスの良い食事提供が出来ているが、水分量に関しては毎日記録をしており平均摂取量が把握できているが、必要に応じて声掛けにて水分摂取を促している。その際、温かいもの、冷たいもの、季節や体調、ご本人の希望を聞いて摂取をうながしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて声掛け・誘導、セッティング、介助を行っています。介助を必要としている方にも、ぶくぶくうがいはいはしてもらい、毎回声掛け等で試みしていますが、ダメな時はケアスポンジなどオーラルケア用品を使用して清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄能力を検討したうえで、オムツ・リハビリパンツの利用、トイレへの声掛け、誘導等を必要に応じて行っています。	一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行なうほか、利用者個々に事前誘導を心掛けるなど、きめ細かなケアをされ、失敗防止やオムツ類の使用量削減に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の日課として、朝の体操・夕方のリハビリ体操への参加を促しています。また、レクリエーションの中でも下肢を重点的に動かすようなプログラムを時には取り入れたり、参加者全員でお腹のマッサージをしたり、大きな声で歌ったり、笑ったりすることで腹筋を使ってもらったりしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大まかに入浴日は決めているが、例えばご本人に声を必ずかけており「今日は入りたくない」と言われた場合には、翌日にずらしたりとご本人と相談しています。あとは、ご本人の中で「この曜日がお風呂の日」と決めていらっしゃる方もいますが、事前にお声掛けしています。	入浴拒否の方には無理強いすることなく、日を替えたり、誘い方を工夫されるなど、利用者の状況に合わせた支援をされている。また、シャワー浴の際には足元が冷えぬよう足浴を併用されたり、利用者の状態に合わせ職員複数で支援するなど、安全対策が取られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に食事後の30～60分ほどは食休みも含めてリビングでも各自の居室でも自由にのんびりと過ごしてもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	臨時薬や新しい処方薬が出た場合、申し送りや連絡ノートを用いて全職員に周知しています。また、服薬について、飲み込みの良し悪しの状態変化については情報共有や対応策を周知するよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に「掃除をしてくれる方」「洗濯物をたんでくれる方」「リビング内の装飾を作ってくれる方」日々の中で職員が声掛けすることで、「いいよ」「なにか手伝うわよ」と参加してもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当フロアの入居者は出不精な方が多いのですが、お天気の良い日など、当施設の向いの公園や施設を含んだ住宅街を1ブロックお散歩したりしています。	老眼鏡の買い替えを望む利用者と共に買物に出かけられたり、寿司が食べたいと要望する方と個別に食事に出かけられるほか、近くの公園散策や事業所周辺での散歩など、利用者の希望を尊重した支援に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にて金銭管理を行っている方が1名しかいないが、月に1度職員が同行し、通帳記帳や買い物に出かけている。その他でも欲しい物がある時は職員が同行し、一緒に買い物に行き、自ら商品を選ぶようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からご本人宛に電話が来た時は、電話を変わりお話ししていただいています。また、ご本人からの手紙ではないですが、「みその通信」としてご本人の1か月の様子などを職員からご家族宛にお手紙をお送りし、近況報告・お知らせをさせて頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースであるリビングには、その季節に合った装飾をしています。時には入居者と一緒に製作することで、今の季節をご理解頂けるようにしています。また、食事の際はゆったりとしたBGMを心地よい陰陽で流すことで食思を無くさないようにしたり、日中帯のリビングはもちろん居室内のカーテンを開ける事で現時刻(昼なのか？夜なのか?)を感じて頂けるようにしています。	共用スペースには、創作貼り絵の満開に咲く桜の花や鯉のぼりなど、季節感をとり入れた装飾がなされている。また、リビングルームにはソファが置かれ、テレビを観たり、新聞や雑誌に目を落とすなど、利用者がゆっくり寛げるよう工夫をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席とは別にローテーブルとソファをテレビ前に配置しており、ソファに並んで座ってテレビを観ながらおしゃべりしたり、テレビをみながらいつの間にかうたた寝したり、新聞を広げてゆっくり読んだりできる環境作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内ではご本人に転倒などのリスクがない範囲で家具(衣装ケースやテーブル、テレビ等)を配置しています。また、カレンダーを壁などに貼る事で日付・曜日感覚をつけてもらっています。	家族の写真や旅の思い出のアルバム、馴染みのクスやラジオが持ち込まれ、利用者が気持ち良く過ごせるよう工夫をされている。また、毎日掃除の時間が設けられ、共用スペースを含め清潔維持と衛生管理に努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に「できること」「わかること」を職員1人1人が把握し、手作りの自助具を活用したり工夫をし、少しでも自立できるように努めています。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名:グループホームみその

作成日:平成 29年 5月 30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	・火災以外に想定される訓練ができていない ・災害対策マニュアルの周知・徹底ができていない	・火災・地震・停電など自然災害の際に職員が冷静に対応できるよう研修や訓練を行う	・災害対応マニュアルの見直し・周知・徹底 ・消防署と連携し、研修を行う ・地域の方にも協力を求める	12ヶ月
2	2	・地域交流が不足している	・地域の方が施設に気軽に来られ、関わりを持てるようになる	・役所・地域包括と連携を図り、情報共有する	12ヶ月
3	10	・ご家族様にグループホームケアを理解していただく。	・家族会の実施する	・ご家族様の要望を聞き、グループホームケアの近況をお伝えし、理解を深め、今以上の信頼関係を築く	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。